

老人福祉センターのあり方及び今後の方向性について

2024年(令和6年)12月

藤 沢 市

老人福祉センターのあり方及び今後の方向性について

<u>1 はじめに</u>	1
<u>2 老人福祉センターの現状と課題</u>	1
(1)老人福祉センターとは	1
ア 各館の状況等	1
イ 各館の主な設備	2
ウ 運用コスト	3
(2)老人福祉センター利用者数の推移	3
(3)老人福祉センターの課題	4
ア 施設の老朽化	4
イ 利用者数の減少	4
ウ 利用者の固定化	5
エ 入浴設備の運用にかかるコスト高	6
オ 浴室利用者数の減少及び利用者の固定化	6
<u>3 「老人福祉センターのあり方に関するアンケート」実施概要</u>	7
(1)調査目的	7
(2)調査対象及び方法	7
ア 対象者	7
イ 対象者数	7
ウ 実施方法	7
(3)実施時期	7
(4)回答概要	7
ア 回答概要	7
イ 考察	10
<u>4 藤沢市高齢者施策検討委員会での意見</u>	11
(1)主な意見	11
ア 老人福祉センターの現状と課題について	11
イ アンケートの実施結果について	11
ウ 老人福祉センターのあり方及び今後の方向性について	12
エ その他	12
<u>5 老人福祉センターのあり方及び今後の方向性</u>	12
(1) 今後の高齢者施策を見据えた取組	12
(2) 課題等を踏まえた整備の基本的な考え	13
(3) 今後の方向性	13

※資料中に記載の表・図・データは、老人福祉センター調べによるもの

1 はじめに

本市の老人福祉センター（いきいきシニアセンター）は、開設以来、多くの高齢者に親しまれ、利用されてきていますが、開設当時と現在では、本市を取り巻く社会情勢が大きく変化しており、ライフスタイルの多様化に伴い高齢者の日常生活や価値観にも変化が生じています。

そのような理由から、高齢者数が増加し続けているにもかかわらず、老人福祉センターの利用者数は近年において減少傾向となっています。特に、やすらぎ荘については、施設の老朽化の問題も生じており、将来的な継続使用が非常に厳しい状況になっています。

このような現状を踏まえ、本市の高齢者施策において、老人福祉センターについて、高齢者に孤独を感じさせない、孤立させないための「居場所」や高齢者の外出を促す施設としてだけでなく、これから求められる機能と果たすべき役割を検討し、今後のあり方や方向性をまとめる必要があります。

2 老人福祉センターの現状と課題

(1) 老人福祉センターとは

本市では、高齢者の生きがいと健康づくりのための拠点施設として、老人福祉法に基づく、老人福祉センターとして、やすらぎ荘・湘南なぎさ荘・こぶし荘の3館を設置し、高齢者のニーズやライフスタイルに即した様々な事業を展開するほか、利用者のボランティア活動への参加支援などを行っています。

具体的には、趣味・教養を深める講座や介護予防事業、相談業務、サークル活動の場の提供等、それぞれの事業を展開するとともに、健康増進を図るため、全館に浴室を設置し、湘南なぎさ荘及びこぶし荘には、水中運動ができるプールを設置しています。

また、市社会福祉協議会が指定管理者として運営管理を行っています。

ア 各館の状況等

(ア) 各館の概要

(令和6年4月現在)

施設名称	やすらぎ荘	湘南なぎさ荘	こぶし荘
所在地	稲荷 586	鵜沼海岸 6-17-7	下土棚 800-1
建物構造	鉄筋コンクリート 一部鉄骨鉄筋コンクリート造 2階建	鉄筋コンクリート 一部鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階建	鉄筋コンクリート 一部鉄骨造 地下1階 地上2階建
敷地面積	7,600.91 m ²	3,477.91 m ²	6,782.91 m ²
延床面積	1,808.90 m ²	3,149.12 m ²	4,937.82 m ²
事業開始	1969年（昭和44年）	1991年（平成3年）	1999年（平成11年）
築年数	55年	33年	25年

(イ) 利用者の範囲

市内居住の60歳以上の方及びその付添いの方

(ウ) 供用時間

午前9時から午後4時まで

(エ) 休館日

- ① 月曜日（敬老の日を除く）
- ② 敬老の日の翌日
- ③ 年末年始（12月27日から翌年1月5日まで）

(オ) 利用料等

無料（ただし、浴室の利用については、1回100円）

イ 各館の主な設備

(ア) やすらぎ荘



- ・大広間、活動室、機能回復訓練室、健康相談室、マッサージ室、図書コーナー、囲碁将棋コーナー、陶芸室、浴室、温室

(イ) 湘南なぎさ荘



- ・大広間、集会ホール、学習室、機能回復訓練室、健康相談室、図書コーナー、囲碁将棋コーナー、工芸室、浴室、運動浴室、屋外ゲートボール場、マッサージ室

(ウ) こぶし荘



- ・大広間、多目的ホール、活動室、学習室、機能回復訓練室、健康相談室、図書コーナー、囲碁将棋コーナー、工芸室、浴室、運動浴室、屋外ゲートボール場、マッサージ室、温室、クッキング室、食堂

ウ 運用コスト

老人福祉センターにかかる運用コスト

(令和5年度決算額)

事業費名	金額 (円)
いきいきシニアセンター業務委託費 (指定管理業務委託、賃借料、施設賠償責任保険)	250,485,188
いきいきシニアセンター施設整備費 (施設修繕費、土地・建物賃借料、大規模維持補修工事)	13,815,110
湘南すまいるバス運行事業費 (老人福祉センター巡回バスの委託料等)	41,851,020
合 計 (a)	306,151,318
延べ利用者数 (b)	144,121 (人)
利用1回あたりコスト (a / b)	2,124(円/回)

(2) 老人福祉センター利用者数の推移

開設以降、高齢者数は増加し、高齢化率も上昇し続けていますが(表1参照)、老人福祉センターの3館合計利用者数は、平成23年度の308,960人がピークで、その後、緩やかに減少傾向となっています。令和5年度の利用者数は144,121人で、平成23年度の46.6%程度となっています。(表2参照)

表1 本市における高齢者数・高齢化率の推移

(各年度4月1日現在)

年度	H20	H21	H22	~	R2	R3	R4	R5
高齢者数(人)	74,203	77,643	80,269		106,649	107,754	108,472	108,674
高齢化率(%)	18.60	19.32	19.85		24.43	24.47	24.49	24.43

表2 老人福祉センター延べ利用者数

(単位:人)

年 度	利 用 者 数			
	計	やすらぎ荘	湘南なぎさ荘	こぶし荘
H20	288,004	73,181	80,659	134,164
H21	288,146	68,474	82,085	137,587
H22	294,923	71,093	81,626	142,204
H23	308,960	74,526	91,386	143,048
H24	305,921	75,680	89,555	140,686
H25	300,748	73,079	89,743	137,926
H26	301,296	73,814	89,561	137,921
H27	300,265	73,236	89,323	137,706
H28	281,959	72,554	76,828	132,577
H29	298,640	72,938	89,699	136,003
H30	291,993	70,492	91,293	130,208
R1	261,550	63,061	83,744	114,745
R2	42,482	14,470	10,526	17,486
R3	101,556	32,235	26,247	43,074
R4	121,093	36,750	33,898	50,445
R5	144,121	39,230	41,177	63,714

(3) 老人福祉センターの課題

老人福祉センターの運用にあたり、次のア～オの5項目が課題としてあげられます。

- ア 施設の老朽化
- イ 利用者数の減少
- ウ 利用者の固定化
- エ 入浴設備の運用にかかるコスト高
- オ 浴室利用者数の減少及び利用者の固定化

ア 施設の老朽化

各老人福祉センターは、建築から年数を経たことによる建物の老朽化や、建物構造による修繕や工事の制限など、施設ごとに特有の課題を抱えています。

(ア) やすらぎ荘

老朽化が著しく、施設にはエレベーターが無いなど、バリアフリーに対応できていない施設となっています。また、藤沢市公共施設再整備プランにおいて、検討事業として位置づいているが、長年、具体の方向性が見いだせない状況となっています。

(イ) 湘南なぎさ荘

築年数は浅いが、施設の構造上、主要設備が地下にあるなど、建物の構造が複雑となっているため、電気設備などの更新や大規模な修繕や工事は建物を除却しないと行えない状況となっています。

(ウ) こぶし荘

上記2施設と比較しても場所が広く、築年数も浅く、浴室及び運動浴室を利用できる施設となっています。

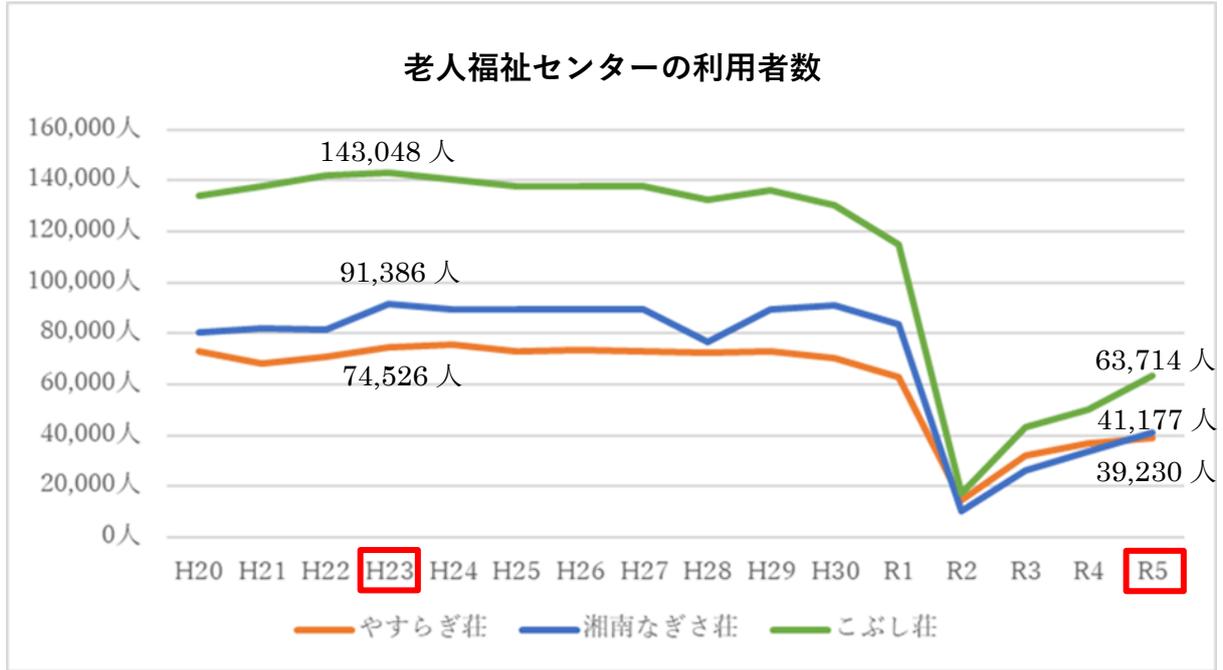
今後、経年劣化に伴い、施設や設備の修繕の必要が生じる状況はありますが、現時点においては、適切なメンテナンスを行うことで、支障なく運営を継続することが可能です。

イ 利用者数の減少

老人福祉センターの利用者数は平成 23 年度をピークに緩やかな減少傾向となっています。令和 5 年度の利用者数は 144, 121 人となり、ピーク時と比べ6割も減少しており、利用者数は回復傾向にはあるものの、コロナ禍前の人数までには戻っていない状況です（5 ページ図 1 参照）。

このように、年々、高齢化率が高くなっているにもかかわらず、施設利用者数は減少傾向にあります。

図1 老人福祉センター延べ利用者数の推移



ウ 利用者の固定化

老人福祉センター実利用者数の推移 (単位：人)

年度	H30	～	R4	R5
やすらぎ荘	1,992		1,180	1,267
湘南なぎさ荘	3,168		1,632	1,724
こぶし荘	2,875		1,812	2,020
合計	8,035		4,624	5,011
延べ利用者数	291,993		121,093	144,121

60歳以上人口（令和6年4月1日） 135,186人

60歳以上人口に対する実利用者数の割合（利用率） 3.71%

令和5年度の実利用者数は、やすらぎ荘が1,267人、湘南なぎさ荘が1,724人、こぶし荘が2,020人となり、合計5,011人となっています。

これにより市内の60歳以上人口（令和6年4月1日現在）の利用率に換算すると、全体の約3.7%にとどまっており、一部の高齢者の利用に偏っている状況となっています。

このように、サービスの公共性・公平性の観点から、利用者の固定化が課題となっています。

エ 入浴設備の運用にかかるコスト高

入浴設備の運用にかかるコスト

(令和 5 年度)

	やすらぎ荘	湘南なぎさ荘	こぶし荘	合計
光熱水費	5,267,277 円	5,261,892 円	5,267,277 円	15,796,446 円
修繕費	2,153,580 円	1,645,710 円	839,300 円	4,638,590 円
人件費 (委託)	3,161,000 円	5,151,150 円	4,877,300 円	13,189,450 円
合計 (a)	10,581,857 円	12,058,752 円	10,983,877 円	33,624,486 円
延べ利用者数 (b)	13,206 人	9,121 人	16,632 人	38,959 人
利用 1 回当たりの料金(a/b)	801 円	1,322 円	660 円	863 円

施設の老朽化にともない修繕費が増す中で、特に浴室施設について、今後も安全に維持していくためには、多大な費用を要することが見込まれています。

現在、入浴事業にかかる経費について、利用 1 回にかかるコストは 3 館平均で 863 円となっており、1 回の利用者負担 100 円に対して約 800 円のコスト高となっています。

また、今後、入浴施設を維持するためには定期的なボイラー交換や修繕などが必要となるため、さらにコスト高が見込まれます。

オ 浴室利用者数の減少及び利用者の固定化

浴室の延べ利用者数及び実利用者数

(令和 5 年度)

	やすらぎ荘	湘南なぎさ荘	こぶし荘	合計
延べ利用者数	13,206 人	9,121 人	16,632 人	38,959 人
実利用者数 (R6.3 月分)	203 人	182 人	227 人	612 人

老人福祉センターの浴室の利用状況について、浴室の利用者は平成 26 年度がピークで延べ 95,854 人の利用があったものの、令和 5 年度には延べ 38,959 人と半数以下に減少しています。

また、実利用者数について、令和 6 年 3 月分では 3 館合わせて 612 人となっており、この数字を年間の実利用者数と想定した場合に、令和 5 年度の延べ利用者数 38,959 人と比較するとわずか約 1.6%となり、一部の高齢者の利用に偏っている状況であることがわかります。

施設利用者と同様に、サービスの公共性・公平性の観点から、浴室利用についても利用者の固定化が課題となっています。

3 「老人福祉センターのあり方に関するアンケート」実施概要

(1) 調査目的

今後の老人福祉センターのあり方について、施設利用者だけでなく、将来的に利用する可能性がある世代や未利用者も調査対象として広く意見を聴取するため。

(2) 調査対象及び方法

- ア 対象者：藤沢市公式LINEの「高齢者」「健康医療」「子育て」セグメント登録者
- イ 対象者数：約24,900人
- ウ 実施方法：藤沢市公式LINEによる配信・回答（e-kanagawa）

(3) 実施時期

2024年（令和6年）7月26日～8月18日

(4) 回答概要

ア 回答概要

（ア）回答者数：355人（回答率：1.43%）

（イ）年齢構成（回答人数・割合）

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
2人	22人	44人	76人	114人	78人	18人	1人
0.5%	6.2%	12.4%	21.4%	32.1%	22.0%	5.1%	0.3%

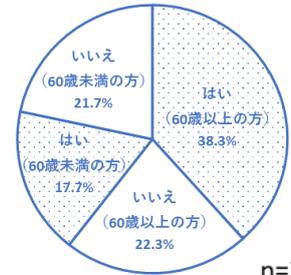
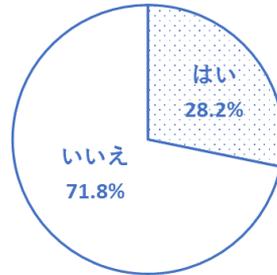
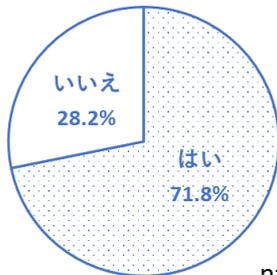
（ウ）集計結果（概要）

今回のアンケートは全部で8項目、14問で構成され、認知度及び利用状況、今後の利用の可能性や必要な機能、老人福祉センターの今後のあり方、高齢者施策全般における必要なサービスについてうかがいました。主な結果は次のとおりです。

① 認知度及び利用状況について

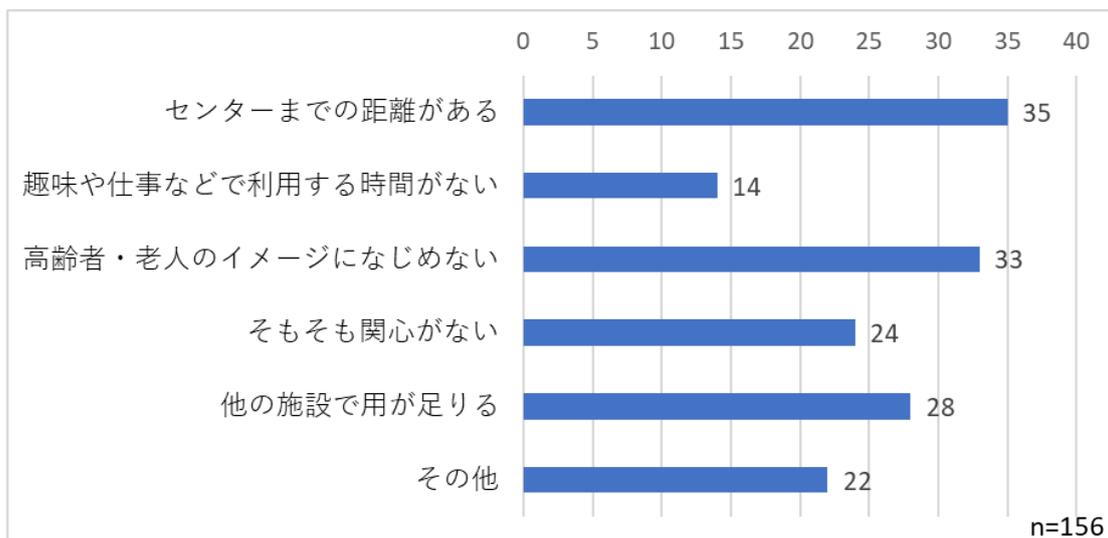
- ・「センターを知っている」が71.8%、「知らない」が28.2%で、「センターを利用したことがある」が28.2%、「利用したことがない」が71.8%でした。
- ・60歳未満の方も含め、「今後利用したい」が56.0%、「利用したくない」が44.0%でした。

センターのことをご存じですか センターを利用したことがありますか 今後、利用したいと思いますか



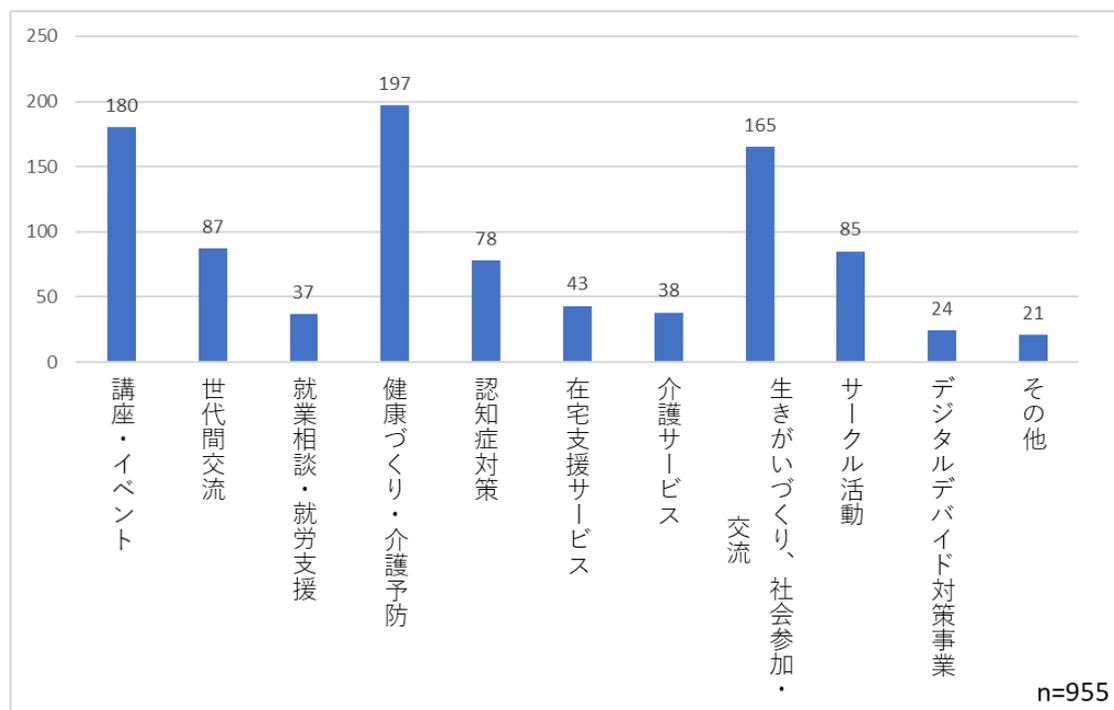
※各グラフにおける「n」は、各設問の有効回答数です。

・また、利用したくない理由として、「センターまでの距離がある」が 22.4%、次いで「高齢者・老人のイメージになじめない」が 21.2%、「他の施設で用が足りる」が 17.9%、「そもそも関心がない」が 15.4%でした。



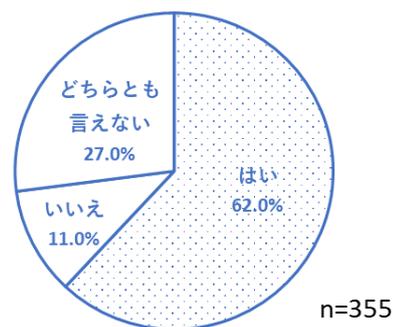
② 「センターに必要な機能・サービス」について（複数回答あり）

・「健康づくり・介護予防」が 20.6%、次いで「講座・イベント」が 18.9%、「生きがいつくり、社会参加・交流」が 17.3%でした。

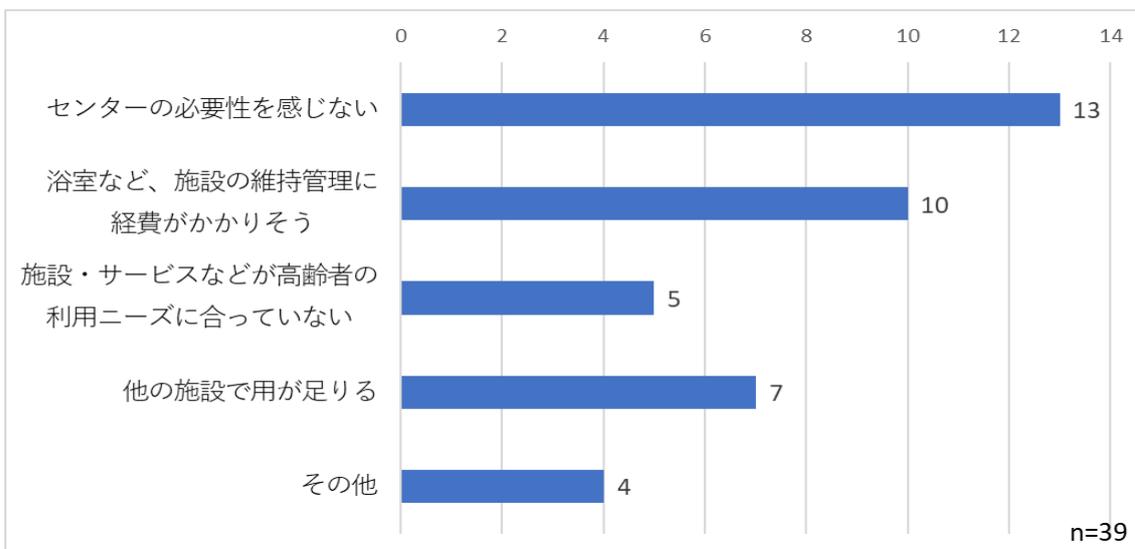


・「今後もセンターは必要」は62.0%、「必要ない」が11.0%、「どちらともいえない」が27.0%でした。

今後もセンターは必要と考えますか

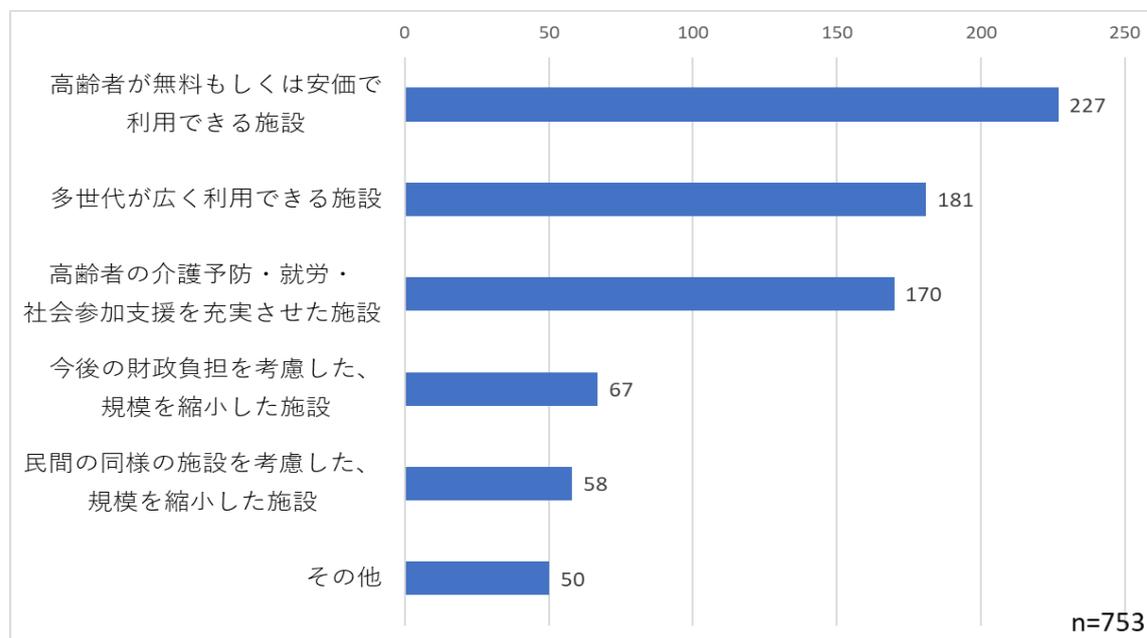


・また、「必要ない」理由として、「センターの必要性を感じない」が33.3%でした。

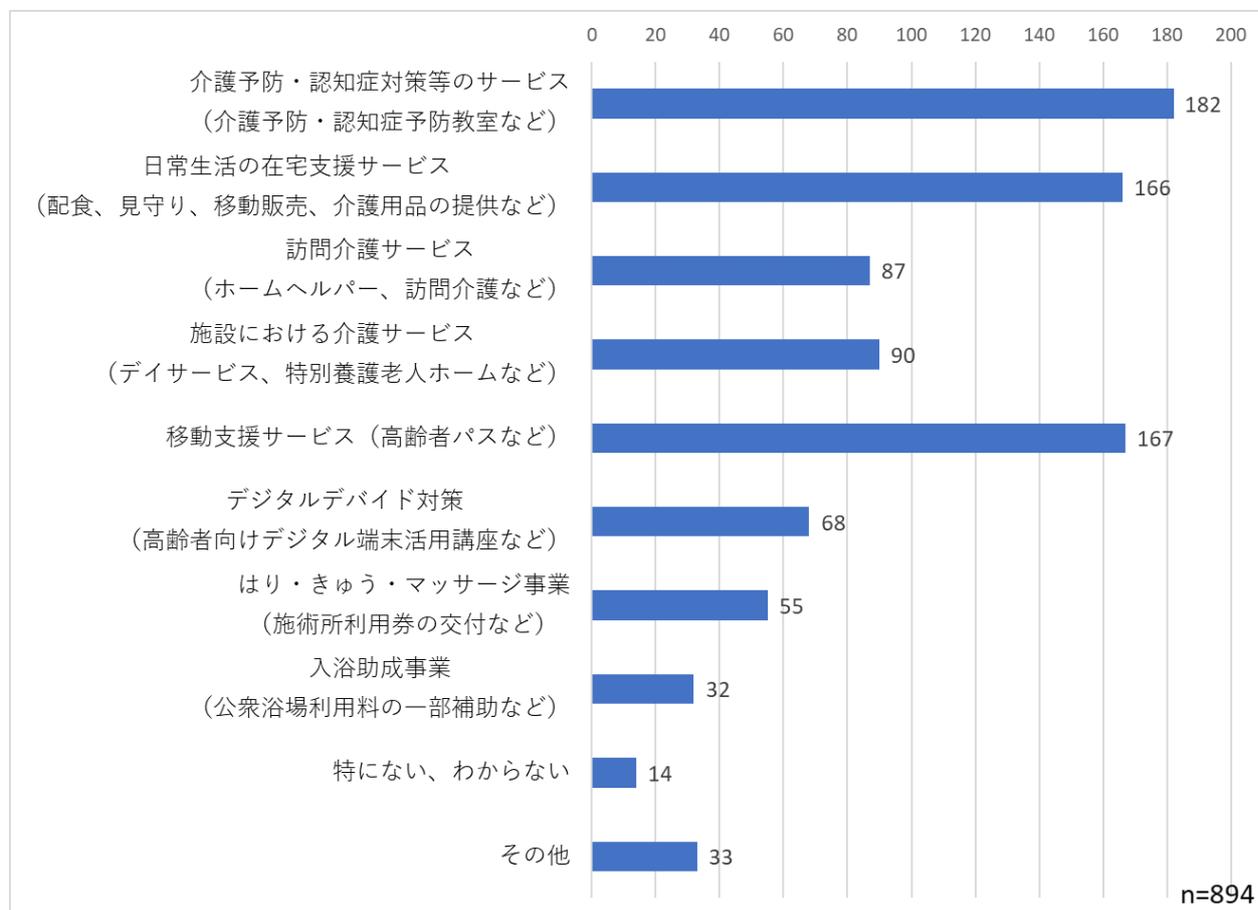


③ 「今後のセンターのあり方としてふさわしいもの」について
(複数回答あり)

・「高齢者が無料もしくは安価で利用できる施設」が30.2%、「多世代が広く利用できる施設」が24.0%、「高齢者の介護予防・就労・社会参加支援を充実させた施設」が22.6%でした。



- ④ 「高齢者施策全般における必要なサービス」について（複数回答あり）
 ・「介護予防・認知症対策等のサービス（介護予防・認知症予防教室など）」が 20.4%、
 次いで「移動支援サービス（高齢者パスなど）」が 18.7%、「日常生活の在宅支援サービス（配食、見守り、移動販売、介護用品の提供など）」が 18.6%、「施設における介護サービス（デイサービス、特別養護老人ホームなど）」が 10.1%でした。



イ 考察

アンケート結果から全体、世代別に分析すると次のような傾向がうかがえます。

(ア) 全体

- ・「今後利用したいと思うか」の問いに対しては、「利用したい」と「利用したくない」の回答数の差が約 10 ポイント程度であるが、「今後もセンターは必要と考えるか」の問いでは 62%の方が「必要」と答えており、現状でのニーズは低いが将来的に必要性が認められる施設であり、時代に即した様々な事業展開を行っていくことが求められていることがうかがえます。
- ・「今後もセンターは必要と考えるか」の問いに対し、「必要ない」と答えた方のうち、「センターの必要性を感じない」「浴室など、施設の維持管理に経費がかかりそう」「他の施設で用が足りる」の回答の割合が高いことから、利用者ばなれが進んでいくとともに、今後ますます特定の利用者限定された施設となることがうかがえます。

- ・センターに必要な機能として、「講座・イベント」「健康づくり・介護予防」「生きがいづくり、社会参加・交流」の要望が多いことから、こうした事業を継続し、さらに充実させていくことが求められています。

(イ) 世代別

年代を大きく「50歳代以下」「60歳以上」区分して分析すると次の点がうかがえます。

- ・「今後のセンターのあり方としてふさわしいと思うもの」について、60歳以上が、「高齢者が無料もしくは安価で利用できる施設」の回答がもっとも多いのに対し、50歳代以下の方は「多世代が広く利用できる施設」の回答がもっとも多く、年代による考えの違いが表れています。
- ・「センターに必要と考える機能・サービス」について、60歳以上が、「講座・イベント」の回答がもっとも多いのに対し、50歳代以下の方は「健康づくり・介護予防」の回答がもっとも多く、年代による考えの違いが表れています。
- ・「今後もセンターは必要と考えるか」について、60歳以上の約69%の方が、「必要」と答えているのに対し、50歳代以下で「必要」と答えた割合は約52%となっており、年代による必要性の違いが表れています。

4 藤沢市高齢者施策検討委員会での意見

(1) 主な意見

本市では高齢者施策を計画的、効果的に推進するため、学識経験者や関係機関、市民等で構成する「藤沢市高齢者施策検討委員会」を設置しています。令和6年10月2日に開催した本委員会において、今後の老人福祉センターのあり方を議題として取り上げ、ご意見をうかがいました。いただいた主な意見は次のとおりです。

ア 老人福祉センターの現状と課題について

- ・利用者数の少なさに驚いている。年間3億円ものお金をかけながら、現状の利用者数を考えると、費用対効果の面からも問題であると考え。利用者数を増やす努力、または、別の施策が必要かもしれない。
- ・利用者数を平成23年度の308,960人までは、戻したい。
- ・高齢者として、定年後の人生は特に大事な年代だと思う。したがって、コミュニケーションの場（施設）はコスト高でも絶対に必要だと思う。
- ・利用者数の減少については、「ポストコロナとして各部屋・浴室・食堂等の定員及び講座等の人数を縮小した影響」「施設の老朽化による修繕等で、利用ができないことまたは利用が制限されることが増えてきた」「新型コロナにより、利用者が老人福祉センター以外に新たな活動場所や生きがいを見つけた。」などの要因もあると思われる。
- ・老人福祉センターの課題で、施設の老朽化、利用状況（人数減）、コストを十分に分析されており、これに基づいた対応を推進してほしい。
- ・民間事業者の高齢者を呼び込むPRをよく見かけるようになり、安価で気楽に参加できる場所が増えてきた。何らかの参考となると思う。

イ アンケートの実施結果について

- ・老人福祉センターの課題について、施設の老朽化、利用状況（人数減）、コストを十分に分析されている。これに基づいた対応を推進してほしい。

- ・アンケートの信頼性について、やや疑義あり。各セグメント登録者は、行政に対して一般市民より関心が高い人々と思われるにも関わらず、回答率1.43%わずか355人の結果で、藤沢市民の意向を判断するには無理があるのではないか。
- ・市民センターと老人福祉センターとは重なる箇所があるので、共有できるように計画した方がよいと思う。

ウ 老人福祉センターのあり方及び今後の方向性について

- ・アンケートの状況を踏まえて今後の方向性をまとめられているが、神奈川県や周辺市町村の方向性を調査し、さらに内容を深めてはどうか。
- ・孤立した老人の社会的コミュニケーションへの参加による生きがい、楽しみなどを体得するという主旨は同感する。もし、このアンケート結果を正しいとするなら、必要と考えていても利用する人はかなり少ない（認知度が70%を超えているにも関わらず）。何か別の施策も考える必要があるのでは。
- ・利用者人数を増やすために、例えば、体験させる、センターに行くことが楽しみになる事業を見つける、住民同士が誘い合うようになる（仲間意識）、老人会等の会議の場として利用する、レクリエーションの場や回数を増やすなど、行ってみたらどうか。
- ・老人福祉センターは「高齢者目線」で、を基本にすべきと思う。

エ その他

- ・老人福祉センターのあり方として方向づけられている「介護予防支援、就労支援、社会参加支援の拠点」と「地域共生社会の実現をめざした施設整備」は「介護予防～就労～社会参加」と前向きな取組み支援として、ぜひ実現をお願いしたい。
- ・体験として、マッサージ等の日を時々、行ってはどうか。また、医者や保健所等に来ていただき、健康講座などを開催してはどうか。
- ・入浴事業について、廃止により入浴場所に困る方々のため、何らかのアフターケアを忘れないでほしい。
- ・老人福祉センターは縮減していくが、一方でそれに代わる手立てを示さなければならぬ。より身近な施設（場所）＝「地域展開」に移行するなど、新たな方向性が必要ではないかと思う。

5 老人福祉センターのあり方及び今後の方向性

(1) 今後の高齢者施策を見据えた取組

いきいき長寿プラン 2026（藤沢市高齢者保健福祉計画・第9期藤沢市介護保険事業計画・藤沢市認知症施策推進計画）に基づき、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、地域社会とのつながりを意識した健康づくり、介護予防を推進していくことが重要であることから、「介護予防支援」、「就労支援」、「社会参加支援」の視点をもって取り組んでいきます。

ア 介護予防支援の拠点施設

- (ア) 介護予防、健康増進（各種講座、運動促進事業、相談事業）
- (イ) 低栄養・オーラルフレイル予防のための保健指導
- (ウ) 外出支援の拠点
- (エ) 認知症カフェ

イ 就労支援の拠点施設

- (ア) 就労、地域ボランティア参加の促進

ウ 社会参加支援の拠点施設

- (ア) 世代間交流の促進
- (イ) 交流事業の実施（レクリエーション大会、サークル活動）
- (ウ) デジタルデバイド対策
- (エ) 終活支援機能

(2) 課題等を踏まえた整備の基本的な考え

前項にあげた課題やアンケート結果などから求められる機能、施設の維持管理や運営にかかるコスト縮減の考え方等を踏まえ、今後の老人福祉センターの整備の基本的な考えについて、次のとおり示していくものです。

ア 老人福祉センターにおける再整備方針

本市では、都市化の進展や経済成長に合わせ、公共施設を集中的に整備してきた中で、老人福祉センターについても、高齢者の生きがいと健康づくりの拠点施設として整備してきました。しかしながら近年、社会状況の変化などからより身近な場所で様々なサービスが受けられるよう、福祉サービス全般において地域支援の考え方にシフトしています。こうした状況を踏まえ、今後の老人福祉センターの再整備につきましては、これまでの拠点整備の考えから、より身近な地域において、機能別にサービスを享受できる方向に転換してまいります。

イ 地域共生社会の実現をめざした施設整備

今後の老人福祉センターについては、地域共生社会の実現をめざし、藤沢型地域包括ケアシステムを深化・推進させていく観点から、高齢者だけでなく全世代のあらゆる方に対する支援を視野に入れた施設の活用を進めてまいります。

この具現化として、現在、鵜沼市民センター・公民館が再整備に向けた検討を行っていますが、一定の敷地確保が可能であることから、湘南なぎさ荘と鵜沼市民センター・公民館との複合化による再整備を進めます。なお、再整備にあたっては、老人福祉センター「B型*1」の機能を保持するとともに、複合化のメリットを活かし、市民センター・公民館との共用を図ることで多世代が集う、地域共生型の施設となるよう整備を進めてまいります。

ウ 入浴事業の廃止

施設の維持管理、修繕の費用が年々増加する中で、特に入浴事業については、光熱水費、維持管理費や清掃などに係る人件費などのランニングコストが高額となっています。また、利用者が固定化し、一部の利用者に多額の経費がかかっていることからサービスの公平性の観点からも課題であるため、今後、施設の建て替え等のタイミングをもって入浴事業を廃止します。

(3) 今後の方向性

今後の方向性としましては、前項にあげた課題等を踏まえた整備の基本的な考えをもとに、それぞれの老人福祉センターの運営体制について見直しを図ります。

老朽化が著しい、やすらぎ荘については、耐震補強が施されておらず、部分的な修繕では対応が不可能な状況となっているうえ、高齢者施設でありながらバリアフリー化が未対応となっています。このような状況を利用者と共有し、ご意見を伺う中で、今後の方針について引き続き検討してまいります。

湘南なぎさ荘については、前項イのとおり、鵜沼市民センター等との複合化による再整備を進めてまいります。

こぶし荘については、現行の老人福祉センター「A型*2」を維持し、食や健康づくりなど、高齢者の生活支援としての機能を持つ施設として、当面、現状での運営を継続して実施してまいります。

* 1…老人福祉センターB型：管理人室、生活相談室、健康相談室、教養娯楽室、集会室、便所

* 2…老人福祉センターA型：所長室、事務室、生活相談室、健康相談室、機能回復訓練室、集会室、教養娯楽室、図書室、浴室、便所